

平成30年度 学校評価計画書

No. 1

					石川県立小松北高等学校		
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判断基準	備 考
1 多様な生徒に対応できるよう研修等で指導力を向上させ「確かな学力」の定着を目指す。	① 研修等で生徒理解を深め指導力の向上を目指す。また少人数授業でのきめ細かな指導を行い「確かな学力」の定着を図る。	教務課 保健厚生課 各教科	学習意欲の低い生徒が多く、興味・関心を引く教材づくりや授業方法の工夫が必要である。また学力差も大きく、個々の生徒の到達点を設定するなど個に応じたきめ細かな指導が必要である。	【満足度指標】 きめ細かで分かりやすい授業を展開し、生徒が授業内容を理解する。 【努力指標】 校内研修に積極的に参加し、生徒理解を深め、指導力向上につなげる。	授業内容が理解できていると思う生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C、Dの場合は各教科で評価内容を検討し次年度への方策を探る。	生徒対象に年2回調査する。
	② A L型授業の実践による、主体的・対話的で深い学びを目指す。	教務課 各教科	教科やクラスにより取り組みにばらつきが見られるが、先進的に取り組んでいる教科もある。	【成果指標】 発表や討議など生徒が主体的に活動する授業改善に取り組む。	自分の考えや意見を意識して発言や文章で表現しようとしていると答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C、Dの場合は各教科の評価内容を全員で検討し、次年度への方策を探る。	生徒対象に年2回調査する。
	③ I C Tの効率的・積極的活用により、生徒の興味・関心・理解度を向上させる。	教務課 各教科	I C T機材の整備や研修会を行いI C Tウィークの実施などで、全体として活用を推奨している。	【満足度指標】 授業の中に積極的に、I C T機器が活用されている。	先生方は絵や写真の掲示や機器を使うなど、教え方に工夫していると答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象に年2回調査する。
	④ 授業規律の徹底を図り、積極的に授業に参加するようにする。	教務課 生徒指導課 各教科	授業を受ける態度は改善されつつあるが、より一層積極的に授業に参加するよう工夫が必要である。	【成果指標】 生徒が積極的に授業に参加している。	授業に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象に年2回調査する。

2	生徒会活動や部活動を充実させ、基本的な生活習慣の確立と社会性の向上を目指す。	①	生徒会を中心に全教職員で働きかけ部活動の活性化を促す。	生徒会課 全職員	不登校経験がある生徒の増加に伴い、運動嫌いや集団行動の苦手な生徒が増加している。部活動の楽しさを認識させ、協調性や積極性を身に付けさせたい。また、部活動とアルバイト等の両立も配慮していきたい。	【努力指標】 部活動への加入率を上げる。	生徒の部活動への加入率が A 50%以上である B 45%以上である C 40%以上である D 40%未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象に年2回調査する。
		②	来校者及び教員に対してしっかりとした挨拶ができるようにする。また、地域の方々と交流する機会を増やし、社会の一員であることを体感させたい。	生徒会課 生徒指導課 全職員	挨拶ができる生徒もいるが、まだまだ十分とは言えない。自らすすんで挨拶できるような習慣づけたい。	【努力指標】 登下校時や必要なときに、自らすすんで挨拶ができる。	来校者及び職員に対し自らすすんで挨拶をしていると答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象に年2回調査する。
		③	学校行事等に積極的に参加させることにより、生徒同士が共同で取り組む機会を設け、コミュニケーション能力の向上を目指す。	生徒会課 全職員	他とコミュニケーションをとることが苦手で自ら進んで集団に交われない生徒が多い。集団の中での個の重要性を認識できるようにしたい。	【満足度指標】 学校行事や生徒会行事等に積極的に参加する。	学校行事や生徒会行事等に積極的に参加できたと答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象に年2回調査する。
		④	教育活動を通して、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境作りや、自己肯定感を高められるよう、校内環境の充実をはかる。	生徒指導課 全職員	相手の気持ちを推し量れず、幼い言葉で相手を傷付けてしまう生徒が散見される。	【努力度指標】 生徒が悩みを抱え込まず、さらに風通しのよい学校づくりをめざす。	いじめの未然防止やいじめを見逃さない学校づくりを推進するよう生徒に働きかけた と答えた教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員対象に年2回調査する。

3	自己理解を深める取組を進め、望ましい勤労観、職業観を育成し、進路実現を目指す。	①	授業や個人面談などの様々な教育活動を通して、進路意識の向上や勤労観・職業観を啓発することで、早期に進路目標を決定させ、その実現に向け意欲的に努力するよう働きかける。	進路指導課 全職員	進路意識の低い生徒が多く、進路に向けた準備が遅れる生徒が目立つ。自分の能力や適性を客観的に理解させ、早期に目標を決定させる必要がある。	【努力指標】 授業や個人面談を通して積極的に進路意識を啓発する。	生徒から進路に関する相談を受けたことがある教員の割合が A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員対象に年2回調査する。
						【満足度指標】 生徒が早期に進路目標を立て、実現に向け努力する。	将来の進路について、保護者・教師に相談したことがあると答えた生徒の割合が A 90％以上である B 80％以上である C 70％以上である D 70％未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象に年度末に調査する。
		②	一人一人の生徒に目を向けた指導を通して、進路実現を図る。	進路指導課 全職員	卒業の時期を迎えても、進路決定に向けて自ら行動することができなかった生徒がいた。外部機関との連携を強化し、多様な生徒達が将来のビジョンを描くことができる力を身に付けさせていく必要がある。	【努力指標】 進路実現を果たすため、自己肯定感を高める取組を行う。	学習活動以外に取り組んだことに○印を ・アルバイト（インターンシップ） ・部活動 ・資格取得 ・ボランティア活動 ・その他（進路に関すること） 1つでも○を付けた生徒の割合が A 90％以上である B 80％以上である C 70％以上である D 70％未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象に年2回調査する。
						【成果指標】適切な指導を通して生徒の進路実現を果たす。	卒業生の進路決定率が A 90％以上である B 80％以上である C 70％以上である D 70％未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	年度末に調査する。
4	教職員の多忙化の改善を図り、ワーク・ライフ・バランスに取り組む	①	校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	全職員	会議の効率化や分掌の見直しを行い、各教員の生徒と向き合う時間確保に努め、各課・各学年が更に連携を密にする。	【努力指標】 めざす学校像についての教職員の共通理解のもと学校運営がなされている。	仕事に優先順位をつけ、業務ごとにスケジュール管理を的確に行い、効率化を図っている教職員の割合が A 90％以上である B 80％以上である C 70％以上である D 70％未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員対象に年2回調査する。
						会議や学校行事等の精選、効率化によって生み出された時間は、他の業務に当てず、生徒と向きあう時間にあてている教職員の割合が A 90％以上である B 80％以上である C 70％以上である D 70％未満である	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員対象に年2回調査する。	